

e002003	[宮之浦]岳参り	概要 適用
		<p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岳参りは、岳の神様(一品法寿権現)に詣でる島内各集落で行われる山岳信仰行事である。 ・宮之浦区は宮之浦岳をご神山として、春と秋の二回山頂の祠に詣でている。 ・秋にも参るが春はまだ雪のため七合目で帰る。 ・シャクナゲの美しい枝を折ってきて氏神様と先祖墓に供える。 ・二三日前より行いをつつしみ、参っている間は家の者ももの静かに過ごす。 ・帰ってくると神前で集落からお神酒を出す。 ・集落内の人もとに集まって共に呑む。 ・次に吸い物が出て酒宴になる(これをウチムケという)。 ・かつては益救神社を起点に宮之浦岳まで総歩きをしていたが、近年は日帰りで終える必要から淀川登山口から実施されている。 ・宮之浦地区では戦後途絶えていたが、平成 17 年より復活の取り組みが始まり、平成 26 年春で 10 周年を迎えた。 ・平成 26 年春は益救神社から宮之浦岳まで一泊二日の総歩きが実施された。 ・宮之浦地区の中川正二郎氏が中心となって活動している(区の行事になっていない)。 ・浜で踏まれていない真砂をとりそれを竹筒に入れて祠に持ってゆく(山からもたらされたものを山へ返すの意味:中川氏)。 ・地区の住民から賽銭を預かり祠で祝詞をあげ、春はシャクナゲの枝を持ち帰る。 ・栗生岳の祠と花之江河の祠もお参りしてる。 ・公民館で婦人会の作ったおはぎを食べて俗界へかえることができる:中川氏 ・
e002003001) 宮之浦岳頂上		
		
e002003002 出発前安全祈願	e002003003 浜にて砂をとる	e002003004 海水でお祓い
		
e002003005 桃太郎旗	e002003006 記念撮影	e002003007 世界自然遺産登録地域
		平成 27 年岳参り(平成 27 年 5 月 27 日)



e002003008
翁岳鞍部



e002003009
宮之浦岳南斜面



e002003010
栗生岳から



e002003011
読経の奉納



e002003012
祠



e002003013
記念撮影



e002003014
花之江河の祠



e002003015
公民館



e002003016
おはぎ



e002003017
シャクナゲを届ける



e002003018
所願とシャクナゲ



e002003019
お神酒

- ・久本寺の僧侶である渡邊智旭師が参加し読経を奉納した。
- ・所願は泉龍氏と真鍋尚子氏がつとめた。
- ・参加者は総勢 19 名(朝日新聞記者 1 名含む)。
- ・05:30 登山口出発 09:00 頂上到着。
- ・15:30 公民館帰着

【文献・その他】

- ・上屋久郷土誌

【写真】

- e002003001)_宮之浦岳頂上祠前祝詞奏上
- e002003002)_益救神社出発前安全祈願
- e002003003)_浜にて竹筒に踏まれていない砂をとる
- e002003004)_所願により海水でお祓い
- e002003005)_淀川登山口「岳参り」の桃太郎旗
- e002003006)_淀川登山口参加者記念撮影
- e002003007)_世界自然遺産登録地域の入り口
- e002003008)_翁岳鞍部へ向かう登山道にて
- e002003009)_宮之浦岳南斜面背景は翁岳から安房岳投石岳
- e002003010)_栗生岳から宮之浦岳を望む
- e002003011)_渡邊智旭師による読経の奉納
- e002003012)_祠と賽銭の図
- e002003013)_永田岳を背景に記念撮影
- e002003014)_花之江河の祠に参拝
- e002003015)_公民館にシャクナゲを届ける
- e002003016)_婦人会の作ったおはぎ



e002003020

直会

e002003017)_益救神社にシヤクナゲを届ける

e002003018)_所願の二人とシヤクナゲ

e002003019)_益救神社にてお神酒をうける

e002003020)_直会風景